2022年度　事 業 報 告 書

特定非営利活動法人　ひらかた環境ネットワーク会議

Ⅰ事業実施概要

3年に及ぶ自粛生活を余儀なくされた中ではありましたが、2022年度は前年度より幅広い活動を展開することができました。

その一つが2月に実施した「ひらかたエコフォーラム2023」です。午前・午後の2部にわたっての開催は3年振りでしたが、1部には200名ほどの参加があり、2部の講演会にも多くの方の参加がありました。また、環境教育部会においては、環境出前授業の実施回数が昨年度を上回る実績を上げることができたことは、今後への明るい兆しを感じることができました。さらに重要課題として取り組んでいる「地球温暖化対策事業」では、9年目に突入した“環境家計簿　我が家のエコノート”をはじめとする4事業を行い、温暖化問題に対する意識啓発に大きな成果を上げられました。そのことを、エコノートやエコ宣言の参加者、そしてプラごみダイエットのアンケート調査に参加された方との会話から感じることができました。

また従前からの課題であった会員拡大については、今年度は会員募集のチラシも作り、会員拡大を図りましたが成果には繋がらず、地道な声掛けが必要であることを痛感させられました。次年度に向けてはその教訓を生かし頑張りたいと思います。

Ⅱ事業の実施に関する事項

【１】特定非営利活動に係る事業

１　地球温暖化対策事業

昨年に引き続き地球温暖化対策事業として、下の４事業に取り組んだ。

【対 象 者】市民、事業者、行政

【予　　算】585,000円（収入実績：協賛金200,000円）

【支　　出】454,364円

【協　　賛】株式会社コマツ、京都信用金庫枚方支店、株式会社ホワイトマックス、
大阪ガス株式会社、恩地食品株式会社、関西リサイクルシステムズ株式会社、
農園 杉・五兵衛、呼人堂、株式会社たまゆら、枚方自動車教習所、
生活協働組合おおさかパルコープ、北村みそ本家、
社会福祉法人 恵裕会 光の峰保育園

(1)　温暖化対策推進チームミーティング開催事業

月に一回、市民、行政、事業者の有志が集まり、地球温暖化対策について取り組み、事業について検討や検証を行った。

＜枚方市地球温暖化対策事業推進チーム会議＞

回	日　程	時　間	場　所
第　1回	2022年　4月18日（月）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　2回	2022年　5月17日（火）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　3回	2022年　6月14日（火）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　4回	2022年　7月11日（月）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　5回	2022年　8月22日（月）	10:00～11:30	環境情報コーナー

第　6 回	2022 年　9 月 30 日（金）	10:00～11:30	環境情報コーナー
第　7 回	2022 年 10 月 28 日（金）	10:00～11:30	環境情報コーナー
第　8 回	2022 年 11 月 24 日（木）	10:00～11:20	環境情報コーナー
第　9 回	2022 年 12 月 22 日（木）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　10 回	2023 年　1 月 23 日（月）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　11 回	2023 年　2 月 21 日（火）	10:00～11:40	環境情報コーナー
第　12 回	2023 年　3 月 14 日（火）	10:00～11:40	環境情報コーナー

(2)「我が家のエコノート」普及事業

事業開始から 8 年が経過した。エコノートの提出は、コロナ禍で郵送が増えたとはいえ、環境情報コーナーまで持参される方もたくさんおられ、会話する機会を持つことができている。会話することで環境問題に関わるいろいろな事柄についての情報を発信することもでき、また共感を得ることもできるなど啓発活動に繋がっている。

【対象期間】2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【受付期間】2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【応募総数】延べ参加者数　308 名

今年度参加者数：　124 名（内新規参加者：2 名）

延べ提出枚数　：　4,224 枚

今年度提出枚数：　　419 枚

今年度配布枚数：約 1,200 枚

【後　　援】枚方市

(3) ごみ減量推進事業

①リユースコーナーの管理運営事業

4 年目となったリユースコーナーは、コロナ禍でも順調に運営されている。この取り組みは目に見えてわかりやすく、来訪者から「助かってます」や「捨てるのもったいないから誰かに使ってもらえるのが嬉しい」等の声を聴くことができ、喜んでいただいていることが伝わり、提供する側、提供を受ける側、双方にとっていい取り組みになっている。

【対象期間】2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【登録者数】307 名（新規 79 名）

【利用者数】今年度 421 名（累計　1285 名）

【利用点数】今年度 2189 点（累計　6588 点）

②プラごみダイエット推進事業

プラごみダイエット生活第２弾の結果をまとめ、多くの人が既に実践しているのはどんなことかを知ってもらうと共に、「皆さんはどうですか」と問うことで、市民はどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みが支持されるのか、加えて、プラごみについての意識を調査することを目的にアンケートを行った。

【実施場所】五六市会場、NPO フェスタ会場、コマツフェア会場、エコフォーラム 2023

【実 施 日】　2022 年 7 月 10 日、10 月 23 日、11 月 13 日、2023 年 2 月 11 日

【参加者数】　延べ参加者人数 258 人

(4) エコ行動宣言事業

取組みは5年目となった。2020年のレジ袋の有料化によるマイバッグ持参が定着してきたことが集計結果から読み取れる。しかし「マイカー使用を控える」「テレビをつけっぱなしにしない」この2項目については高い確率で実践されていない実態が見える。前回に続きこの項目の改善手立てを検討することが急務である。併せて「環境にやさしいものを選ぶ」ということについての理解があまりなされていないのではと思われる。そもそも「環境にやさしい」とはについて、もっと知ってもらう必要があることが感じられる結果でもあった。

【対象期間】2022年6月～2022年12月31日

【受付期間】2022年7月～2022年12月31日

【応募総数】294名　（応募用紙　配布数：25，000部）

【共　　催】枚方市

【後　　援】枚方市教育委員会

【協　　力】枚方市地球温暖化対策協議会

2　環境講座開催事業

今年度も環境活動に取り組む市民の輪を広げるため、下記4講座を実施した。

【予　　算】59,000円（収入実績：1,500円）

【支　　出】133,545円

(1)自然エネルギー学校2022の開講事業

地球温暖化対策を講じなければならない」と言われながらも、地球温暖化にブレーキがかかるどころか、その原因の一つであるCO_2の排出量が増加の一途をたどっている中、自然エネルギー学校で「温暖化により変化する漁業や農業の現場を知る」ための講演会を開催した。さらに、毎年開催している小水力発電のデモンストレーションの代替として、水力発電所（比良マイクロ水力発電小屋）の見学会を大型太陽光発電（ソラパ）も組み入れて開催した。この見学会では、リーフレット「小水力の可能性を考えよう」も配り、水力発電（ピコ水力）を含めた自然エネルギー全般への理解を図った。

第1回　講演会

【開催日時】９月26日　（月）　15:00～16:50

【テーマ】　「迫りくる温暖化の脅威～現場から考える～

【講　師】　野島五兵衛氏（農園　杉五兵衛園主）:「農業の現場」の報告

丸井晶子氏＜北村光弘氏(大阪市漁業協同組合)の代理報告者):「漁業の現場」の報告

【場　所】　サプリ村野　環境保全研修室　とZOOMによるオンラインでの両開催

【参加者】　会場　13名　　ZOOM　3名　　計16名

【対象者】　市民

第２回　見学会

【開催日時】10月19日　（水）　9：00～16：00

【見学地】　大型太陽光発電（ソラパ）と比良マイクロ水力発電小屋

【参加者】　22名

【対象者】　市民

(2)環境講座「くらわんか塾」開講事業

今年度から「くらわんか塾」は、広く市民向けに環境についての知識・情報を提供し、環境

意識の啓発を目的に実施することに衣替えしました。その第1回目は「世界のゴミ事情」と「枚方市のゴミ」を取り上げ、世界ではまだまだ先進的なごみ処理が行われていないところもあり、今後そうした地域の経済が発展していけばますますごみが増えていくことを知ってもらった。それと比べ枚方市では先進的なごみ処理が行われており、一人当たりのごみ排出量も府の平均と比べても少ないことも知ってもらえた。併せて、ごみ減量のために私たちが行うべきことを理解していただける機会となった。

【内実施日】　11月10日(木)　10：30～12：00

【参加者数】　11名

【対 象 者】　市民

(3)環境活動スターター講座の開講事業

環境への関心を持ってもらうきっかけとするためのミニ講座、環境の身近でホットな話題を少し掘り下げておしゃべりしようというスタイルの環境ティールームをそれぞれ、月一回のペースで開講した。

【対 象 者】市民・事業者

【実施内容・参加者数】

＜環境ミニ講座＞　全7回実施　113名参加

実施日時	実施内容	参加者数
6月30日（木）13：30～15：00	エコクッキング「七夕スイーツ」	11
7月 31日（日）13：30～15：00	手作り乾電池	コロナにより中止
8月20日（土）10：30～12：00	天の川を遊ぼう	44
9月22日（木）13：30～15：00	エコクッキング「さといも月見団子」	15
10月27日（木）13：30～15：00	見学会 「広域防災拠点の役割について知ろう」	7
11月24日（木）13：30～15：00	エコクッキング 「クリスロールケーキ作り」	19
2月16日（土）13：30～15：00	100均に負けない0円クラフト 「ミニタペストリーで季節を彩る」	12
3月25日（木）13：30～15：30	「手作り電池」とエネルギー	5
合　　計		113

＜環境ティールーム＞　全8回実施　　41名参加

実施日時	実施内容	参加者数
6月16日（木）10：30～12：00	世界的水不足　日本の水源が危ない！！	3
7月14日（木）10：30～12：00	風力発電の今～日本の巻き返し～	5
9月 8日（木）10：30～12：00	FITから10年　太陽光パネル大量廃棄問題が迫る	6
10月13日（木）10：30～12：00	緊急課題！地球温暖化の臨界点は避けられるか？	5
11月10日（木）10：30～12：00	世界のゴミの現状を知る	7
12月 8日（木）10：30～12：00	アーカイブ　映像で見る環境問題	6
2月9日（木）10：30～12：00	昆虫食が現実となる	7
3月9日（木）10：30～12：00	地産地消でみんな笑顔に	2
合　　計		41

3　中間支援事業

当法人の会員団体をはじめ、会員でない団体の活動支援としてチラシやポスターなどの製作支援や、活動についての相談業務などを行った。また、団体や個人、学校で取り組まれている「エコキャップの回収」支援として、回収されたエコキャップの中間回収拠点の役割を担い、最終受け入れ事業者への搬入を行った。こうした支援をすることで、環境活動の輪を拡げ、環境施策推進へとつなげた。

【予　　算】 40,000 円（収入実績：事業収入 36,000 円）

【支　　出】 55,501 円

(1)環境団体活動交流会開催事業

交流会という形の取り組みはできなかったが、サプリにて環境事業協会や、学生起業家等との話し合いや相談業務など、他団体・事業者との交流を行った。

(2)環境団体活動支援事業

① エコキャップ等回収支援事業

【事業期間】2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【実施場所】サプリ村野環境情報コーナー　および　市内学校・施設など

【対　　象】市内全域

≪エコキャップ≫

【回収総数】個数　249,400 個　（取り組み開始からの累計 3,678,974 個）

重量　580ｋｇ（取り組み開始からの累計約 8.9t）

【CO_2削減量】1.8ｔ（取り組み開始からの累計 28.2t）

【回収場所】事務所、および取り組み団体・事業所・学校等

【運搬回数】処理業者への運搬 2 回（軽トラック）（10/26、3/22）

【支援団体・事業所】楠葉西中学校、なぎさ西中学校、招提中学校、桜丘中学校、西牧野小学校、山田東小学校、枚方高校、京都信用金庫、なごみの里

② 他団体活動支援事業

一般財団法人環境事業協会や各種団体・個人からの相談業務、部屋の貸出業務をおこなった。また、枚方市民菊人形の会のカレンダーや菊花展のポスターなど印刷物の製作をはじめ、琵琶湖淀川流域圏連携交流会の HP 管理・チラシ作成・事務局業務を行った。桜丘中学校からは、職業インタビューを受け、2 名の生徒がインタビューに来てくれた。

【対 象 者】会員・その他の環境団体

【支援団体・事業所】

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、NPO 法人森林ボランティア竹取物語の会、枚方市子育て支援室、ひらかた市民菊人形の会、枚方市菊花展実行委員会、里親支援機関おひさま、一般財団法人環境事業協会、琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会、琵琶湖・淀川流域圏河川フォーラム実行委員会、株式会社エコスタイル、特別養護老人ホームウグイスの里

4　ひらかたエコフォーラム開催事業

今回は、3 年ぶりに午前・午後の 2 部制で実施することができた。午前の部は例年と同じく環境表彰と温暖化対策の取り組み報告を行うとともに、サプリ村野北館 1 階と南館 2 階の環境情報コーナーでは「関西リサイクルシステムズ株式会社」「天の川を清流にする会」「NPO 法人

森林ボランティア竹取物語の会」の出展をえて、当法人のブースも含めた環境ブース展示とブースラリーを実施。午後の部は関西学院大学の朴勝俊教授による基調講演と、それを受けての意見交流を行った。

【開催日時】令和５年２月 11 日(土)10:00～15:00

【会　　場】サプリ村野

【来場者数】延べ 231 人

【共　　催】枚方市、枚方市教育委員会

【対 象 者】市民、事業者、行政

【出展団体】天の川を清流にする会、関西リサイクルシステムズ株式会社、NPO 法人森林ボランティア竹取物語の会、NPO 法人ひらかた環境ネットワーク会議、

【予　　算】230,000 円

【支　　出】190,669 円

5　環境情報コーナーの運営等業務委託事業

本年度も契約書記載の業務内容を滞りなく行った。

【予　　算】280,000 円（収入実績：委託料 280,000 円　但し人件費は除く）

【支　　出】203,294 円

(1)環境情報コーナーの管理運営事業

コロナが沈静化してきたこともあり、昨年より来場者及び研修室の活用人数は大幅に増加した。また、各種取組の受付業務、緑のカーテン業務はほぼ通常通り行うことができた。リユースコーナーは登録者数も 300 人を超え引き続き好評である。マンネリ化にならない様、棚替えを行うなど工夫を凝らしている。また、環境情報の発信ツールも新しく作成するなど環境意識の向上を目指し啓発に努めている、

【事業期間】2022 年４月１日～2023 年３月 31 日

【実施場所】サプリ村野南館２Ｆ　環境情報コーナー　環境保全研修室

【対 象 者】市民、活動団体、事業者

【環境情報コーナー各種利用状況】(2023 年２月末現在)

	延べ利用数
環境情報コーナー	大人 1465 人　子ども　449 人　計 1914 人
環境保全研修室	164 回　1542 人
エコドライブシュミレーター	61 回
省エネナビ貸出	8 台貸し出し中

(2)緑のカーテン事業・ゴーヤの苗配布事業

毎年実施している　枚方市の「緑のカーテンモニター」の受付、苗の配布および報告書回収業務を今年度も請け負った。今年の参加者は、195 名。苗を各４株配布し、８月にその報告書の回収業務を行った。併せて、「マイゴーヤづくり」をサプリ村野で実施し、緑のカーテン作りを体験する機会を設け、普及に努めると共に、環境情報コーナーの周知及び環境に関心を持ってもらう機会とした。「マイゴーヤづくり」では２週間に一度のお世話活動を通して、参加者同士の交流が深まり、今年度も 10 月にはオプション企画として干し柿づくり体験を行い、先人に学ぶエコな暮らしを知ってもらう機会にもなった。また参加者の方で会員になって下さ

る方もあった。

【事業期間】2022 年 5 月～2022 年 10 月

【実施場所】サプリ村野南館２Ｆ　環境情報コーナー　環境保全研修室

【対 象 者】市民

・緑のカーテンモニター　　参加者 195 名、　報告書提出枚数　142 枚

・MY ゴーヤ登録者　　15　名　　活動回数：10 回

6　総会及び会員交流会等開催事業

通常総会開催時期は、コロナ禍であったため、委任状や議決権行使書による出席をお願いし、少人数で開催した。交流会は開催しなかった。

≪通常総会≫

【開 催 日】令和 4 年 6 月 4 日（土）

【場　　所】サプリ村野南館 2 階 環境保全研修室

【内　　容】令和 4 年度通常総会　10：30～12：05

出席者数：63 名/正会員数：85 名（本人 18 名、委任状 20 名、議決権行使書 25 名）

議　　題：第 1 号議案　役員選任に関する件

第 2 号議案　2021 年度事業報告書案承認の件

第 3 号議案　2021 年度活動決算書案承認の件

第 4 号議案　2022 年度事業計画書案承認の件

第 5 号議案　2022 年度活動予算書案承認の件

【対 象 者】会員

【予　　算】30,000 円

【支　　出】44,251 円

7　広報事業

広報事業として会報誌の発行、HP の管理運用に加え、インターネットの情報ツール等を活用し、情報発信を行った。

【予　　算】240,000 円

【支　　出】252,703 円

(1)会報誌「環境ひらかた」発行事業

今年度も遅滞なく年 4 回発行できた。この会報誌は、当団体の取り組みや活動、環境の課題等をわかりやすく発信するため毎号工夫を凝らして作成している。会員や会員以外の関係団体・事業者にも配布するとともに、生涯学習市民センター・図書館等公共施設にも設置し、一般市民の方にも読んでいただけるようにしている。

【発行部数】　3,400 部（A4 版 8 ページ、全面カラー刷り）

№69 春号　2022 年 4 月 1 日発行　900 部配布

№70 夏号　2022 年 7 月 1 日発行　800 部配布

№71 秋号　2022 年 10 月 1 日発行　800 部配布

№72 冬号　2023 年 1 月 1 日発行　900 部配布

【対 象 者】市民、事業者

(2)HP の管理運営事業

講座のお知らせや活動報告を中心に日々更新を行っている。

【アクセス数】16,350 件　（昨年 18,212 件）

【対 象 者】会員、市民、事業者

(3)その他の広報活動

コロナ禍ではあったが、NPO フェスタや五六市、コマツフェスティバルに参加し、当法人や、プラごみについての PR 活動を行った。

≪情報紙・ＷＥＢ掲載≫

情報誌：枚方市広報・枚方子育て通信 Haru

WEB(インターネット上の情報サイト)掲載：枚方市公式 FB

≪街宣・他団体主催によるイベント参加≫

五六市、コマツフェスティバル、NPO フェスタ

8. 自然エネルギー発電啓発促進事業

(1)自然エネルギー発電啓発事業

自然エネルギー学校において自然エネルギーの普及啓発に努めた。(2-（１）参照)

9　モビリティ･マネジメント事業

“モビリティ”すなわち、“移動”の状況（移動手段等）が、個人にも社会にも望ましい方向に向くよう（環境に負荷をかけないなど)、そしてそれが自発的・主体的に行われることをめざし、それらを促す取り組みとして下記の事業を行った。

【予　　算】 1,050,000 円（収入実績：事業収入 1,265,000 円)

【支　　出】 1,041,206 円

(1)「ひらかた交通タウンマップ」作製配布事業

公共交通情報を伝える事で、公共交通の利用促進を図り、車社会がもたらす環境負荷を少しでも減らすことを目的に、今年も転入者向けに「ひらかた交通タウンマップ」を配布した。このマップの裏面には、電車やバスのお得で便利な利用方法をわかりやすく解説しており、転入者に限らず広く市民に役立つものとなっている。そのため、転入者以外にもマップを希望する人も多く、要望に応え図書館や環境情報コーナーにも設置し、希望者には随時無料で渡した。また、枚方市駅構内にも随時配架してもらえた。

【対 象 者】市民

【内　　容】マップの更新 2 回 12,000 部(12 月：5,000 部発行、3 月：7,000 部発行　A1 版 A4 仕上げ　カラー両面刷り)

転入者向け啓発チラシ 3,000 部発行(A4 判 カラー両面刷り)

(2) 公共交通利用促進事業

① 「第 32 回バス！のってスタンプラリー　枚方・八幡魅力発見 おべんとうをつくろう！」の実施

未来にも環境にやさしい公共交通が私達の足として存続し、まちの活性化を維持できる社会の実現のため、公共交通利用促進施策として実施。そのために、まず乗り方を学ぶ機会の提供として本事業を実施。また今回は隣接する八幡市と共に地域魅力を発信することも目的として掲げた。実施に当たっては三密を避けるために 1 日イベントではなく 10 月から 12 月の間で自由に参加していただけるような形態で開催した。

【対 象 者】市民

【開催日時】令和 4 年 10 月 1 日～12 月 11 日
【参加者数】243 人
【抽選応募者数】241 人
【共催】枚方市　八幡市、京阪バス株式会社
【協力】京阪電気鉄道株式会社、ブールミッシュ株式会社、多田製茶株式会社、菓楽、株式会社 Mizkan、パナソニック株式会社、八幡市立松花堂庭園・美術館（公益財団法人やわた市民文化事業団）　一般社団法人八幡市観光協会

②「ひらかた交通すごろく」の活用

平成 28 年度開発した「ひらかた交通すごろく」を活用した啓発の取り組みをする予定であったがコロナ禍によりできなかった。

③交通タウンマップの普及促進の取り組み

寝屋川市、八幡市への働きかけを行った。

④バスバックヤードツアー実施

【開催日時】8 月 20 日（土）8 月 21 日（日）
【参加者数】合計 52 世帯（150 人子供 77 人）
【内容】京阪バス枚方営業所で、非常口からの脱出体験や、バスに乗ったままの洗車体験など。
枚方市駅発 1 台、新香里バス停発 2 台、樟葉駅発 1 台、津田駅発 1 台

10　まちづくり推進事業

下記の２事業を行う予定であったが、各種事情によりできなかった。

【予　　算】 10,000 円（収入実績：円）
【支　　出】 0 円

(1)　美しいまちづくり推進事業

・五六市会場周辺美化活動　　中止
・天の川クリーンウォーク　　中止

(2)　歴史文化遺産の保存と活用事業

ウォーキングやフォトイベントも実施できなかった。

11　環境教育推進事業

環境意識の醸成は子供のころからの環境教育が重要との思いで、今年も下記出前授業及び出前授業の用に供するためのツールづくりに取り組んだ。

【予　　算】140,000 円（収入実績：事業収入 71,840 円）
【支　　出】164,399 円

(1)　環境教育の出前授業の実施事業

環境教育部会では、下記表の通り毎月第２土曜日を基本に年間 12 回、部会を開催し、環境出前授業の実施計画やテーマ毎の事前準備や講師とスタッフの要員確保を行った。

月度	定例会議の開催	環境出前授業	環境出前授業の紹介などの事業活動
4 月	4/9 山田池で部会と 昼食 BBQ の後に花見		・学校訪問・打ち合わせ：16 校 ・教育委員会との懇談
5 月	5/7　環境情報コーナー	3 校：6 クラス	・学校訪問・打ち合わせ：3 校

6 月	6/12　環境情報コーナー	3 校：5 クラス	・学校訪問・打ち合わせ：7 校
7 月	7/9　環境情報コーナー	2 校：3 クラス	・学校訪問・打ち合わせ：1 校
8 月	8/13　環境情報コーナー		・学校訪問・打ち合わせ：１校 ・機材のメンテナンス
9 月	9/10　環境情報コーナー	3 校：5 クラス	・教育委員会との懇談 ・学校訪問・打ち合わせ：1 校
10 月	10/8　環境情報コーナー	2 校：6 クラス	・学校訪問・打ち合わせ：1 校
11 月	11/12 環境情報コーナー	3 校：5 クラス	
12 月	12/10 環境情報コーナー	1 校：1 クラス	・環境政策課に環境出前授業の公開原稿を提出
1 月	1/14　環境情報コーナー	1 校：1 クラス	
2 月	2/4　環境情報コーナー	1 校：1 クラス	・ひらかたエコフォーラム 2023 で紹介
3 月	3/11　環境情報コーナー		・事業計画の実績と来期の計画（案）を提出

学校へのアプローチをする上での重要な「説明ツール」の一つとして、今年度も「環境出前授業プログラム冊子」を作成した。 5 年前から実施している、各メニューの「趣旨」と「具体的な実施内容」をメニュー毎に 1 ページずつにまとめた冊子で、「環境副読本」の該当ページと学校授業の理科、社会のどの項目に応用出来るかを併記しており、校長、担任に「環境出前授業」の具体的な内容を説明するための強力なツールとなっている。また、学校では昨年から授業に SDGs を積極的に取り入れていることから、今年度からプログラム冊子の併記する内容に「SDGs」の記号と項目も追加した。そうすることで、説得力が高まり先方のニーズも取り込めると判断したのである。これらはいずれも部会内での協議の中から出たアイデアを集約した結果である。

コロナ禍が落ち着いてきたことに加え、こうした工夫も功を奏してか、今年度は下記に示すように、昨年を大きく上回る実績を上げることができた。

【実施校等】 12 校 （蹉跎西小、蹉跎東小、香陽小、蹉跎小、樟葉北小、山田東小、東香里小、樟葉西小、桜丘小、開成小、西牧野小、香里小）

※今回、各種団体、イベント等は無し

【実施件数 】 19 件　（昨年 15 件うち 1 件は中止）

【実施時限数】 33 時限

【派遣人員 】 延べ 126 名　（昨年延べ 91 名）

【対 象 者 】 市内小中学校の児童・生徒、各種団体イベント、PTA行事等

【実施テーマ 】 ＊下記カッコ内は昨年度の数値

環境問題と電気エネルギーについて学ぼう（屋外版）　6 件（4 件）

環境問題と電気エネルギーについて学ぼう（屋内版）　4 件（4 件）

ペットボトルから使い捨て問題を考えよう　3 件（3 件）

地球温暖化について考えよう　2 件（2 件）

穂谷の里山の話しと間伐材を使ったクラフト体験を楽しもう　2 件（1 件）

地球温暖化と木の役割について考えよう（新規メニュー）　2 件

※上記 19 件の内、正規授業時間での実施は 11 件、他はクラブ活動の時間で実施

(2) 環境啓発・環境教育ツール作成事業

今期の新しいメニューとして「地球温暖化と植物の役割」をテーマの屋内版と屋外版を完成させ、蹉跎西小学校のエコクラブで前期(屋内版)、後期(屋外版)に実施することが出来た。
また、子どもたちの理解を深めるため、電子黒板、ＴＶ等の端末機器の活用が図れるよう整備し、使用頻度の高い「手廻し発電機」や「電気エネルギー変換パネルのオルゴール」などの教材を補充し整備を行なった。

12. 人材育成事業

【予　　算】 10,000 円（収入実績：0 円）
【支　　出】 2,880 円

(1) インターンシップ受け入れ事業

今年度も夏休み、春休みそれぞれ 10 日間程度　大学生のインターンシップを受け入れた。最初に「NPO 法人とは」「環境問題とは」を学んでもらった。次に、様々ある環境問題から、自分たちの関心があること、或は取り上げてみたい問題をインターン生全員で話し合って決め、その問題について調べ、話し合い、掘り下げていくという事を重ね、環境啓発に関する企画書づくりに挑戦してもらった。その他、講座や会議に参加し、会議運営について学んだり、講座で実際に市民と話をする機会も設けた。これらの体験を通し環境への関心を高め、それを拡げていく方法を学んでもらった。

さらに今年度の春季インターンシップでは、インターン生の所属団体である「ドットジェーピー」からインターン生が与えられた課題「未来自治体を考える」というテーマの下、30 年後のあってほしい自治体のための政策作りにもチャレンジしてもらった。

【対　象】大学生
【期　間】8 月～9 月、2 月～3 月　それぞれ約 10 日
【受入数】夏休み期間　ドットジェーピーより 1 名、関西外国語大学より 2 名、龍谷大学より 2 名
　　春休み期間　ドットジェーピーより 2 名

(2) インターンシップ生フォローアップ事業

・他団体のインターン生相談業務対応
・ドットジェーピー主催「未来地方自治」への参加
・夏のミニ講座「天の川で遊ぼう」にスタッフ会員 1 名が参加協力
・龍谷大学のインターンシップ報告交流会に参加

13 その他

① 会員数

＜2023 年 3 月 31 日現在の会員数　　カッコ内は昨年同時期の会員数＞

	正会員	賛助会員	計
個人	62（65）	49（52）	111（117）
非営利団体	15（17）	3（1）	18（18）
営利団体	2	0	2（2）
合計	79（84）	52（53）	131（137）

②令和 4 年度理事会の開催

◎第 1 回理事会

日　　時：2022 年 5 月 6 日(金)　10:30～11：22

場　　所：サプリ村野　環境保全研修室

理事総数：13 人

出席者数：13 名（本人出席 11 名、委任状出席 2 名、議決権行使書 0 名）

議　　題：第 1 号議案　役員候補者の選任に関する件

第 2 号議案　運営委員任命の件

第 3 号議案　2021 年度事業報告書(案)承認の件

第 4 号議案　2021 年度活動計算書(案)承認の件

第 5 号議案　2022 年度事業計画書(案)承認の件

第 6 号議案　2022 年度活動予算書(案)承認の件

◎第 2 回理事会

日　　時：2022 年 6 月 4 日(土)　12：05～12：15

場　　所：サプリ村野　環境情報コーナー

理事総数：13　名

出席者数：13 名（本人出席 8 名、委任状出席 5 名、議決権行使書出席 0 名）

議　　題：第 1 号議案　理事長及び副理事長選任に関する件

◎第 3 回理事会

日　　時：2022 年 11 月 11 日(金)　10：30～11：45

場　　所：サプリ村野　環境保全研修室

理事総数：13　名

出席者数：13 名（本人出席 11 名、委任状出席 2 名、議決権行使書出席 0 名）

議　　題：・中間事業報告

・上期予算執行状況

③運営委員会の開催

回	日　程	時　間	場　所
第　1 回	2022 年　4 月 19 日（火）	14：00～16:00	環境情報コーナー
第　2 回	2022 年　6 月 14 日（火）	14：00～16:00	環境情報コーナー
第　3 回	2022 年　7 月 12 日（火）	13：30～15:10	環境情報コーナー
第　4 回	2022 年　8 月 25 日（木）	13：30～15:20	環境情報コーナー
第　5 回	2022 年　9 月 30 日（木）	15：00～16:40	環境情報コーナー
第　6 回	2022 年 10 月 24 日（月）	13：30～15:00	環境情報コーナー
第　7 回	2022 年 11 月 15 日（火）	13：30～14:50	環境情報コーナー
第　8 回	2022 年　12 月 19 日（月）	13：30～15:20	環境情報コーナー
第　9 回	2023 年　1 月 12 日（火）	13：30～15:00	環境情報コーナー
第 10 回	2023 年　2 月 14 日（火）	13：30～15:20	環境情報コーナー
第 11 回	2023 年　3 月 28 日（火）	13：30～15:20	環境情報コーナー

⑤その他参加したミーティング

◎おおさかスマートエネルギー協議会・家庭部門会議(丸井)
◎琵琶湖淀川流域圏連携交流会 幹事会(丸井)
◎NPO フェスタ実行委員会(三橋)
◎琵琶湖・淀川流域圏河川フォーラム実行委員会(丸井)
◎琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会(丸井)

⑥団体・審議会等への派遣

◎枚方市環境審議会
期　間：2022 年 4 月～2023 年 3 月　　派　遣：委員として 1 名(豊高)
◎枚方市地域産業基盤強化奨励事業選定審査会
期　間：2022 年 4 月～2023 年 3 月　　派　遣：委員として 1 名(丸井)
◎枚方なぎさ高等学校学校協議会
期　間：2022 年４月～2023 年 3 月　　派　遣：委員として 1 名(宮村)

【２】. 収益事業　　該当なし